

大津 歴博 だより

2001
No.43

近江東海道400年記念企画展 — 五十三次の魅力 —

7月28日(土)～9月2日(日)



木曾街道六拾九次 大津 歌川広重画 本館蔵

歌川広重の「木曾街道六拾九次」シリーズ（全71枚）は、天保年間、江戸の竹内孫八と伊勢屋利兵衛を版元として出版されました。図柄の中心に八町通りが描かれていますが、江戸時代、この通りの両側は旅籠屋が軒を連ね、地形も琵琶湖に向かってゆるい下り坂になっていました。広重の浮世絵（写真上）には、両側の旅籠屋や、湖に向かって傾斜していく道の様子などが忠実に描かれており、大津宿の特徴を正確に捉えた優品といえるでしょう。



大津市歴史博物館

近江東海道400年記念企画展

—五十三次の魅力—

たります。近江では、大津・草津・石部・水口・土山の五箇所が宿場として繁栄しましたが、現栗東町の六地藏は、立場として賑わいを見せ、また甲西町の平松は、美し松（天然記念物）が名勝の地として旅人の関心をひいていました。

今回、これら県下東海道沿いの二市五町が連携し、東海道四〇〇年を記念した展覧会を開催することになりました。大津市歴史博物館では、館蔵の街道関係資料を中心に、屏風絵や巻物、絵図などに描かれた、近江五宿の風景や旅の風俗、さまざまな宿場の情報をさりげなく盛り込んだ浮世絵、旅の携帯品として、コンバクトに収納できるように工夫された、さまざまな小物類などを展示します。



東海道名所図屏風 大津宿の部分 本館蔵

写真上は、江戸時代中期の東海道名所図屏風に描かれた大津宿です。港に停泊している和船から米俵を降ろしている人足たち、板敷きの商家や馬に乗った武士などが描かれています。また写真下は、大名行列が瀬田唐橋を渡り、大津方面に向かって描いた浮世絵で、対岸に粟津の松並木や膳所城が描かれています。さらにその右手に、瓦屋根の密集した家並みの描かれている場所が大津宿です。三枚続きの横長の画面に、近江八景と街道の風景を巧みに配置した優品といえます。

徳川家康は、関が原の合戦に勝利を納めた翌年の慶長六年（一六〇一）正月、政権の基盤を確固としたものにすべく、東海道の宿場を整備し、江戸と京都を結ぶ幹線の支配に乗り出しました。平成三年は、それからちょうど四〇〇年にあ



東海道近江八景一覽之図 橋本貞秀画 本館蔵

● 主な展示資料

○ 近江名所図屏風 個人蔵

三条大橋と鴨東の町並み、山科から瀬田唐橋、草津、石部までの東海道を描く。

○ 近江名所図屏風 本館蔵

瀬田唐橋の兩岸と中島、石山寺や膳所城、大津町や牛車の往来などを描く（写真下）。

○ 東海道名物椀 本館蔵

東海道各宿場の名物を、蒔絵椀の蓋裏にあしらった珍しいもの。京都は京野菜、草津は姥が餅などを描く。全一〇組。

○ 人物東海道 歌川広重画 本館蔵

東海道五十三次の各宿場の名産や風景を、旅人の風俗など、人物を中心に描いたもの。

○ 増補東海道巡覧記 本館蔵

旅の携帯用のガイドブック。この手の案内記は江戸時代に多くの版元が競って出版した。そのため、それぞれに興味深い工夫が凝らされている。その違いを分かりやすく紹介する。

○ 馬の腹掛け 本館蔵

大津の馬神社で売り出された馬の腹掛けは、馬の病気に効き目があると評判になった。

○ 馬神社棟札 長等神社蔵

大津の馬の守り神として信仰された馬神社の修復には、数多くの大津町人が協力したことが棟札に記された文字から理解できる。

○ 携帯用蠟燭立て 田上郷土史料館蔵

江戸時代のアイデア商品。組み立て方法が、かなり工夫されている。

その他、浮世絵や旅の衣装なども展示。また、体験コーナーとして、旅の装束（男女子供用）を試着したり、駕籠に乗ったり、旅の小道具に触れてみるなど、夏休み期間中、子供たちにも親しみながら、江戸時代の旅を実感できるような工夫を盛りだくさんに用意しています。



近江名所図屏風(部分)

● 観覧料

一 般…六〇〇円(四八〇円)
高・大生…五〇〇円(四〇〇円)
小・中生…四〇〇円(三二〇円)
※(一)内は、前売、団体(一五名以上)、市内在住の六五歳以上の方、障害者の方の割引料金

● 休館日

7/30 8/6・13・20・27

「近江東海道」展 — 各施設の展示計画

市町・施設名	テーマ	会 期
大津市歴史博物館	五十三次の魅力	7月28日(土)～9月2日(日)
草津宿街道交流館	東海道—西のうまいもの・東のうまいもの—	7月24日(火)～11月18日(日)
栗東歴史民俗博物館	近江の街道	10月1日(月)～11月4日(日)
石部町立東海道歴史資料館	東海道の浮世絵と石部	8月18日(土)～11月25日(日)
甲西町教育委員会 (甲西文化ホール)	写真で見る東海道展	10月11日(木)～10月28日(日)
水口町立歴史民俗資料館	東海道50番目の宿場町・水口	10月13日(土)～11月17日(土)
土山町立歴史民俗資料館	東海道土山宿	10月13日(土)～11月25日(日)

*各展示施設の休館日・観覧料については、各々の施設にお問い合わせください。

●東海道ウォーキング(共同事業)

9月から11月にかけて、大津宿を起点に、東海道を鈴鹿峠まで、各地域の学芸員がリレー形式で案内。とっておきの街道の隠れた史跡を紹介します。

近江国府と東海道

■7月24日(火)～9月2日(日)

古代の東海道が瀬田橋（奈良期の橋は現在より70～80m下流の地点にありました）を渡って栗太郡（現在の瀬田地域）に入ったところに、近江国の中心である国府が置かれていました。昭和三十年代の終り、神領団地の東側から国府の中枢部にあたる国庁の政庁部分の建物跡が発見され、大きな話題となりました。近年は、その周辺部の発掘調査が進み、新しい事実が明らかになってきています。

本展では、国府跡の発掘調査で出土した瓦などの遺物を中心に発掘調査で明らかになった国庁の姿を紹介します。



近江国庁跡出土瓦 滋賀県教育委員会蔵

◆◆◆◆ 講座インフォメーション（7月から8月まで） ◆◆◆◆

7月21日(土) 13:30から15:00	古文書に親しむ ⑨	雨乞いの記録を読む
○江戸時代の堅田と瀬田で催された雨乞い行事の様子を、その次第を事細かに記録した古文書を読んで紹介します。講師：中森 洋（本館学芸員）		
7月28日(土) 13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	近江の官衙遺跡について—国府・郡衙—
○近年の発掘調査により明らかになってきている近江の官衙遺跡について、近江国府を中心に各地域の遺跡を紹介します。講師：松浦俊和（本館学芸員）		
8月4日(土) 13:30から15:00	企画展関連講座	江戸時代の旅
○江戸時代の大名から庶民までの旅の様子を、具体的なデータによって分析、紹介。旅にどれだけの費用が必要だったのかなど、日ごろ皆さんが持たれている疑問にお答えします。講師：樋爪 修（本館学芸員）		
8月11日(土) 10:00から11:30	第83回親子歴史講座	旅の小道具を使ってみよう
○旅の携帯品として、さまざまな工夫の凝らされた小物類を実際に触れてみるほか、火打石を実際に使ってみるなど、昔の旅の体験をしていただきます。		
8月18日(土) 13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	近江国府跡の発掘
○近江国府跡は、国府の中枢部である国庁地域を中心に発掘調査が進み、新しい事実が次々と明らかになってきており、その最新成果を紹介します。講師：細川修平（滋賀県文化財保護協会主任）		
8月25日(土) バス一日	ふるさと大津歴史教室	東海道関宿の町並みを訪ねて
○三重県の東海道関宿は、街道沿いに古い町並みが保存されています。今回は関宿を訪問するとともに、土山宿本陣や街道沿いの史跡を巡ります。		

描かれた東海道

■9月4日(火)～10月28日(日)

本展では、本館蔵の長大な巻物である「江戸・長崎往還図」を中心に、江戸時代の東海道を始めとする街道風景を描いた資料を展示します。この巻物は、東海道を江戸から京都まで、さらに山陽道を西へ、九州の長崎までの街道風景を描いたもので、詳しい街道や宿場の情報が巧みに盛り込まれています。本展では、それらの情報を分かりやすく引き出し、紹介します。



◆◆◆◆◆ 講座インフォメーション(9月) ◆◆◆◆◆

9月1日(土) バス一日	ふるさと大津歴史教室	壬申の乱の伝承地を訪ねて
○大津市内には壬申の乱の伝承地が多数あります。そのなかでも代表的な法伝寺(西の庄)、御霊神社(鳥居川町)、葬り塚(膳所)などの社寺や遺跡を見学します。		
9月8日(土) 10:00から11:30	第84回親子歴史講座	近江国府跡の見学
○近江国府跡の発掘現場を訪れ、どのように調査が行われているのか、また見つかった遺構・遺物を見学します。 講師：松浦俊和(本館学芸員)		
9月15日(祝) 13:30から15:00	古文書に親しむ⑩	旅の古文書を読む
○旅の携帯用ガイドブックには、旅人に役立つ興味深いアイデアが満載されています。講座では、内容の解説とともに、さまざまに工夫されたアイデアの数々を紹介します。講師：樋爪 修(本館学芸員)		
9月22日(土) 13:30から15:00	ミニ企画展関連講座	近世の旅人 -伊勢参宮道中日記から-
○江戸時代、庶民は伊勢参宮など、神社参拝を理由に、旅を楽しんでいました。講座では、伊勢参宮の道中を詳しく記録した旅日記を素材に、当時の庶民の旅を具体的に解明していきます。講師：田中智彦(岐阜聖徳学園大学教授)		
9月29日(土) 13:30から15:10	第238回土曜講座	環境芸術 in BIWAKO
○世界湖沼会議関連講座 “環境のための芸術”として湖国で誕生したエコロジカルアートの成りたちから、10月14日の「湖の精大集合」にいたる経過をわかりやすく解説します。あわせてオカリナの演奏もあります。講師：土田隆生(京都女子大学教授)		

※諸般の事情により、内容が変更される場合があります。

※いずれの講座もハガキで、お申込みください。

※参加証の発送は、講座申込み締切り(10日前)以降となります。

※参加証がない場合は、恐れ入りますが、当館までお問い合わせください。

収蔵品紹介

36

重要文化財

法華経（色紙金銀箔散）

八帖

西教寺蔵 本館保管
平安時代（十二世紀）

近江を代表する名刹の一つ、天台真盛宗総本山西教寺には数々の貴重な寺宝が伝来していますが、その中でも京都に昔あった法勝寺のものが多く伝えられていることをご存知の方は少ないかもしれません。法勝寺は、「国王の氏寺」と呼ばれたように、白河天皇の勅願寺として、今の岡崎公園のあたりに十一世紀後半に建立されました。岡崎一帯に広大な敷地を持つ、この時代を代表する国家寺院として、池中に浮かぶ中島の八角九層の大塔や、多数の仏像などが豪華に造られました。そのように隆盛を極めた法勝寺も中世の戦乱で廃れ、それを嘆かわしく思った後陽成天皇は天正十

八年（一五九〇）に詔勅し、それまでに縁の深かった西教寺が寺籍を継ぐことになりました。

さて、今回紹介する「法華経」は、平安後期に流行した、いわゆる「裝飾経」で、紫・濃萌黄・朽葉・薄茶・白の五色の色紙を交互に継いだうえに表面に金銀箔を散らし、そして、約六人の人によって端正に書写されています。とても贅沢なお経です。

このお経は大変優雅なだけでなく、実際に法会で使用されていた形跡があります。それは、読み仮名を記す「字音点」やアクセントと清濁を示す符号「声点」、そして書き込み（メモ）などが確認されるからです。また、呉音で読み、声点位

置を六種類にも分けて表記するやり方は、

十二世紀の天台宗山門派の呉音表記法を知る上でも重要です。これらについては今後さらに詳しく研究されることでしょう。ちなみに、現在でも西教寺では、その流れをくむ「慈海版よみ」と呼ばれるよみ方で法華経を読んでいるそうです。

華麗な裝飾経を実際の法会で声を出して読んでいた、そんな当時の華やかな様子を、このお経から想像してみたいかがででしょうか。（寺島典人）

妙法蓮華経随喜功德品第十八

尔時弥勒菩萨摩訶萨白佛言世尊若有善

男子善女人闻是法华经随喜者得几所福

而说偈言

法華経（部分）

大津歴博だより No.43
平成13年7月15日

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077)521-2100
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>